

堀内 孝子 選

特  
選

夏の日に汗と涙のグラウンド勝利の叫び響く青空

県立尾道北高等学校一年 松本 啓汰

【評】 猛暑日が続いたこの夏、目標に向かって毎日練習を続けた。大会が勝利したみんなの喜びと希望が感じられる。

ばっちゃんのまがったこしをおしながらのぼるさかみちあせびっしよりだ

庄原市立東小学校二年 島田 悠利

【評】 今年の夏は特に暑かった。曲がったおばあちゃんの腰を押しながら坂道を登るやさしい気持ちしが伝わってくる。

あの一本決めきれなかったくやしさがコートに立つとまたよみがえる

大竹市立玖波中学校二年 古村 楓

【評】 テニスの大会でしょうか。悔しい思いが読者に伝わってくる。悔しさをばねに頑張る希望が見えてくる。

「ごめんね」とぼつりと囁く君の声頬を濡らすは日暮れの時雨

呉工業高等専門学校三年 大木 梨愛

【評】君の顔がぬれているのは、時雨ではなく涙かもしれない。素直な心で見つめる作者の思いが感じられる。

ほしかった本を手に入れ開くとき未知の世界がそこに広がる

広島市立船越中学校二年 朝長 風羽

【評】本を読むことで新たな知識が増えてくる。本を読む喜び、楽しさが伝わり静かな様子が浮かんでくる。

念願のセーラー服にそで通し心浮き立つ鏡見る朝

県立広島皆実高等学校一年 堀益 優渚

なつやさいろいろでないでかわいいなわたしのすきなサラダになあれ

庄原市立東小学校二年 栗原 那奈

春の日に新たな命燕の巣まだたよりない小さな翼

呉市立呉中央中学校二年 占部 結大

夕暮れに染まる尾道坂の街瀬戸内海も光を宿す

県立尾道北高等学校一年 松並 暖士

おじょう土のじいじに手紙とどくかな会館前のゆう便ポスト

廿日市市立大野東小学校五年 袋瀬ほのみ

星月夜無数の星が道照らすまるで未来に導くように

県立尾道北高等学校一年 戸田 愛蘭

通学時電車から見る青海原陽光浴びて輝くごとし

県立尾道北高等学校一年 鈴木和佳奈

虹の下あじさい並ぶ帰り道花の先には光る水玉

三次市立布野中学校二年 小田 直幸

藍色の母娘二代の浴衣着て涼しき風が袖を駆けゆく

県立三原高等学校一年 尾越 心美

畑仕事母の背中に降り注ぐ天空海闊輝く緑

県立三原高等学校二年 山入端彩華

全身をねじらせ酸素使い切りゴーグル越しに見る青い空

広島市立安佐中学校二年 鈴木 里彩

目開けば笑う人あり耳聞けば話し声ある家のあたたかさ

比治山女子中学校二年 岸本 愛亮

赤クレヨンまた新しくなるほかの色はときには長くときには短かく

三次市立八次小学校五年 前田 大翔

お祭りだワクワクするな楽しみだきんさい祭りうれしい気持ち

三次市立八次小学校三年 清川 柚乃

ピンク色ドックにそびゆる巨大船二度と帰らぬ呉の港に

呉工業高等専門学校三年 佐々木慎介

オーブンカーポカポカ南風を肩にのせリズム刻んでエンジンふかす

県立尾道北高等学校一年 大村 凌平

ふんわりと泳ぐクラゲは暗闇で明るく光る海の宝石

呉市立呉高等学校二年 柳迫 梨愛

カエルがね親子で鳴くよゲコゲコと親子なかよく歌っているよ

三次市立八次小学校四年 中村 駿寿

海開き肌色光る夏の日揺れる陽炎麦わら帽子

呉市立呉高等学校二年 八谷 葵

線香の匂い漂う墓地の中思い出される通夜の夜の祖母

県立三原高等学校一年 浅海 優

堀内 孝子 選

特  
選

南無阿弥陀仏晩年の身に眩くもさびしらにして見えがたき道

広島市 三浦 恭子

【評】南無阿弥陀仏と眩いてみても、老いたこの身に仏の道は見えない。遠く聖らかな界は測り難い、という作者の気持ちしが伝わる。

猛暑日のひかりをまとひ勇ましく吾子をはじめて海へ踏みこむ

広島市 熊谷 純

【評】長い猛暑日が続いたこの夏。初めて海に入った子供さんを見守る、作者のあたたかなまなざしが感じられる。

傷ついた兵士笑顔で入場す。パラリンピック平和願いて

三次市 山本 圭子

【評】いまだに続いている戦争。傷ついた戦士もパラリンピックに笑顔で入場した。平和を願う思いが伝わってくる。

見えぬ目で撫でつつ進む探し物当たりて握る夫の手強く

広島市 石原千代子

【評】目が見えず、手探りで探し物をしている作者。ご主人の手に触れ  
しつかり握った。夫婦の絆が感じられる。

風そよぐ二十戸数のわが村に男の子の生れし鯉幟たつ

広島市 田中 博子

【評】子供の減少傾向にある日本。僅か二十戸数の村に男の子が誕生し  
た。家族や地域で喜ぶ姿が浮かんでくる。

穫りわずかな田畑耕やし九人の子育てし姑の冷えゆく手握る

山県郡安芸太田町 岩本美智子

カーブ戦タイガース相手に0対0延長聞きつつケトルを磨く

広島市 長尾 裕子

大戦の疎開者数多養いき厨の母の包丁の音

世羅郡世羅町 石原 恭子

ふるさとを箱いっぱい詰めて込んで娘に送る海とレモンと

広島市 倉橋 香織

路地裏に藁の匂ひの蘇る被爆に耐へし人家を解けば

広島市 永井 勝弘

はつ夏の空を映したテーブルに焼きたてのパンを並べる朝

広島市 坂井 美貴

息子のくれし防災グッズの銀の笛救命の音の高高と澄む

福山市 高橋千恵子

シヨパン弾くフジコ・ヘミング視つつ思う老いることは自由になること

三次市 堂本 明美

茜雲見上ぐ窓辺に小さな灯明日は手術日ひとり佇む

広島市 山田 雅子

そびえ立つ高炉はもはや錆おりしされど誇るがに夕陽に染まる

呉市 中島 義夫

夕暮れのカフェに子らと笑みながら妻の余命はわれのみが知る

尾道市 川口 靖文

山間にすすきの目立つ荒れ棚田打ち捨てられし限界集落

広島市 三谷 俊明

戦争の終りはいつとヒロシマで「平和のポスト」に問う十二歳

廿日市市 金子貴佐子

澄みきつた秋空仰ぐ またあおげば九十六歳走りたくなる

尾道市 藤田 久美

まだ出来るきつと出来ると鼓舞しても足の衰え日に日に分かる

広島市 西岡 昌子

祖父の背に語られぬままの戦後史を原爆ドームは静かに見守る

広島市 箭田 儀一

過去よりも未来を語り合ふ君に日傘差し掛け炎天をゆく

三原市 新谷 眞子

初出荷皆で育てたじゃが芋は体にやさしい自然農法

山県郡北広島町 出本 恵子

子ら歌ふ「ひろしま平和の歌」聞こゆ今朝全開の校舎の窓より

広島市 大多和 義

四年ぶりの峡のふるさと校舎より聞こえきし校歌に歩を止めて和す

尾道市 仲尾 修